

---

# ～彼がくれたもの～

リンカ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

〜彼がくれたもの〜

### 【Nコード】

N4227C

### 【作者名】

リンカ

### 【あらすじ】

あたしわ彼に出逢って、大切な物をもらった。いや貰ったというより、くれたんだ。そうそれわあたしだった・・・

## プロローグ

あたしわ、彼に出逢って変わったんだ……

彼に出会ったこの瞬間から、変わったんだ……

彼がくれた物……

彼が、わたしにくれたもの……

そうそれは、本当の

あたしだったんだ……それわ、今まで生きてきた中で、あたしに残る一生大切に、一生守っていかなくやいけない物……

それが……

彼があたしにくれた物……

第2マ（前書き）

なし

## 第2ワ

ねえー???今君が生きてたら、どんな顔するかなー???

笑ってくれる???

微笑んでくれる???

それとも・・・

あたしわ、今どんな

顔してるの???

ふと、自分の部屋の

鏡を見た・・・

あたしわ、今すごい

顔だった・・・

そう。こんな顔みたら

優わ引くヨネ・・・

ねえ?そこにいるんでしょ???

優???なんで見えないの???

あたしわココにいるヨ。

今すぐ。向かえに来てヨ。

ねえ。

優・・・優わいきなり転校してきた・・・

まず、いつもどおり

教室にむかうあたしたち4人わ、いつも

遅刻ギリギリに来ていた。

この日も、朝のチャイムと共に、

教室のドアを開いて、

あたしたちわ、入った・・・

この日が、あたしの

13年の人生の中で、

一番の日となる事も

知らずに・・・

いつもの朝・・・

変わらぬ先生・・・

クラスの生徒・・・

いつもと何も変わらない、月曜日の朝。

その日わ、今から1週間という、

やるせない気持ちと、

よオしやるか!!!

の気持ちのいりまじった、空気の中、

担任の先生の言葉で

ふいんきが、変わった

「今日わ、皆さんに

新しく仲間を紹介します」

ガラガラ・・・

「東京から引っ越して来ました。

山崎・優 デス。

これから、宜しくお願いします!!」

この人わかなりの美形・・・・・・・・



（結構、ホテルだ口なあ。）

そうおもいながら、

彼を見ていた・・・

「じゃあ山崎君わ、

山川さんの隣に座って・・・」

えッ・・・

あたしッ

まち???

さっきのイケメンボーイが、あたしの

隣・・・・・・

「宜しく・・・俺、優」

「あっ！宜しく。

あたしモモ””」

あたし等わすぐうちとけた。

まるで、小さい頃かた、知ってるかのよおに……優わいきなり  
転校してきた……

まず、いつもどおり

教室にむかうあたしたち4人わ、いつも

遅刻ギリギリに来ていた。

この日も、朝のチャイムと共に、

教室のドアを開いて、

あたしたちわ、入った……

この日が、あたしの

13年の人生の中で、

一番の日となる事も

知らずに・・・

いつもの朝・・・

変わらぬ先生・・・

クラスの生徒・・・

いつもと何も変わらない、月曜日の朝。

その日わ、今から1週間という、

やるせない気持ちと、

よオしやるか!!!

の気持ちのいりまじった、空気の中、

担任の先生の言葉で

ふいんきが、変わった

「今日わ、皆さんに

新しく仲間を紹介します」

ガラガラ・・・

「東京から引つ越して来ました。

山崎・優 デス。

これから、宜しく願います!!」

この人かなりの美形・・・・・・・・

（結構、モテルだ口なあ。）

そうおもいながら、

彼を見ていた・・・

「ぢゃあ山崎君わ、

山川さんの隣に座って・・・」

えッ・・・

あたしッ

まぢ???

さっきのイケメンボーイが、あたしの

隣・・・・・・

「宜しく・・・俺、優」

「あっ！宜しく。

あたしモモ””」

あたし等わすぐうちとけた。

まるで、小さい頃かた、知っていたかのよおに・・・優わいきなり転校してきた・・・

まず、いつもどおり

教室にむかうあたしたち4人わ、いつも

遅刻ギリギリに来ていた。

この日も、朝のチャイムと共に、

教室のドアを開いて、

あたしたちわ、入った・・・・・・・・

この日が、あたしの

13年の人生の中で、

一番の日となる事も

知らずに・・・・・・・・

いつもの朝・・・

変わらぬ先生・・・

クラスの生徒・・・

いつもと何も変わらない、月曜日の朝。

その日わ、今から1週間という、

やるせない気持ちと、

よオしやるか!!!

の気持ちのいりまじった、空気の中、

担任の先生の言葉で

ふいんきが、変わった

「今日わ、皆さんに

新しく仲間を紹介します」

ガラガラ・・・

「東京から引越して来ました。

山崎・優 デス。

これから、宜しくお願いします!!」

この人かなりの美形・・・・・・・・

（結構、ホテルだ口なあ。）

そうおもいながら、

彼を見ていた・・・

「じゃあ山崎君わ、

山川さんの隣に座って・・・」



えッ・・

あたしッ

まち??

さっきのイケメンボーイが、あたしの

隣・・・・・

「宜しく・・俺、優」

「あっ！宜しく。

あたしモモ””」

あたし等わすぐうちとけた。

まるで、小さい頃から、知っていたかのよおに・・・あたしわ、  
もともと

夜の顔と、朝の顔を

持ってた・・・

でも、それわ4人

以外誰も知らない。

でも、違ってた。

もう1人あたしの

正体を知ってるやつが、いた。

そうそれわ今朝、

転校してきたばかりの、

優だった……。その事を知ったのは、

そいつから、メールが来た。

授業中隣の席なのに、

メールして来た……。

内容わ……………

(今日わ、何処イクン????)

って・・・

わけが、分からず、聞いた。

(何がノ?)

するとすぐ返事が来た。

(だから、今日ワ

バイクで何処イクン????)

・・・と・・・

あたしわ、一瞬、

空を飛んだ。

高く高く。

でも、それわ僅か

一秒ぐらい。

すぐに、地獄におちた気分・・・。

目の前が、真っ暗に

なったのが、分かった。

(なんで・・・・・・・・しっ・・・・・・・・てる・・・・・・・・の?????)

そう聞くのが、精一杯で・・・・・・・・

そうすると。

そんな事みんな、

知ってるんじゃない？

えッ

でも、それわない事

が分かったので、

ホッとした

・  
・  
・  
・

・  
・  
・  
・  
・  
・

ぢやなくて、なんで

山崎・優わ

あたし等の事を知ってたのか・  
・  
・  
・

すると、教えてくれた・  
・  
・。

時ッ昨日・  
・  
・。

山崎わ、その辺を、

ぶらぶらしてた。

すると、コンビニの辺から、聞こえる

異様な声に、耳を

澄ませた・・・。

あたしの声だったらしい・・・

ある一部始終・・・

・・・キャハハハ。

塚、次何処イク？

サツでも、いじる？？

・・・キャハハハ

まだ？？サツイチロ””

あいつ等、調子のとってっから、

うざくて、

しょうがねえしなあ。

よっしゃ” いくか。

ブルーン。。

バイクが来た・・・

山崎わ急いで、

隠れたらしい。

そして、うち等が

行った後、逃げるように、帰ったと・・・

第2ワ（後書き）

なし



第3マ〜付き合つて（前書き）

なし

### 第3ワ、付き合つて

・・・つて訳!!

分かつた??

・・・。

あたしわ、何も

いえなかつた・・・

つというより、

ゆえなかつた・・・

あたしわ、こんなに

弱かつた????

ううん。

あたしわ、ヨワクなんか、ない。

コイツが、変な所を、

みただけ・・・。

そう、思ったかった・・・。

でも、コイツわ

追い討ちを駆けるように、

あたしに、いった・。

この事を、学校に

ばらせば、ドオなると

思う??

アいつわ、ニヤ付きながら、あたしに、

いった・・・。

あたしわ、

何も・・・

いえなかった・・・

「ちょっと。バラしたら、ゆるさないカラ・・・。絶対!!」

こいつわ、嫌な奴だ

忘れよう。

その時は、まだ

キズかなかった。

こんな奴が、

あたしの・・・

一生忘れられない

彼氏。そのものに

なることに・・・

あたしわ、知るよしも、

なかった・・・キンコーン  
カーンコーン

その日は、

あたしにとって、

変わった一日となった。

「なあ。俺の事、

優。って呼んでなあ」

「はあ???いきなり何!?!」

「頼む!!俺、山川の事、モモって、呼びたいんだ。」

「ええけど・・・。」

バラしたら、ドオなるか、

わかってるよね?」

「ぢゃあ、あたしカエルから・・・。  
バイバイ・・・。」

「・・・てよ。」

「え?」

「まで・・・よ」

「何？」

「バラさねえ。

バラさねえカラ、

俺と・・・

俺と。

付き合えよ。」

「何いってんの？？」

冗談でしょッ。

あたしわ、今まで

彼氏なんか、作った事、ないの!!」

「だから、俺が

お前の一番初めの

彼氏になつてやるよ」

「なんで、そこまで、

あたしを、彼女にしたいの??

ただ、バラしたいなら、

バラせば、いいじゃん。

なのに・・・」

「なのにつて、なんだよ。

別に、好きな女の

ために、守つてやりたいがために、

彼女にしちゃダメなんか。



俺わ、お前の事が

好きだ・・・。

だから、お前の彼氏になりたい。

お前にもう、淋しい

思いわ、してほしく、

ないんだ。

全部、知ってるんだ。

お前の事・・・全部。」

「なんで、泣いてるの??

あたしの家庭状況

なんて、優にわ

関係ないでしょ?。」

「あるよ。大アリなんだよ!!」

「なんで? ぢゃあ聞くヨ。

優と付き合っ

なんか、イイ事

あるの??」

「あるよ。」

「何があるの??」

「俺と一緒に、イル事が、

幸せになるように、

俺ワ頑張る!!」

「何いってんの??」

このクラスにわ、

あたしよりも、

可愛くて、ヤンキー

じゃなくて、

頭よくて・・・

そんなコ一杯いるぢゃん。

あたしにわ、優わ

つり合わないヨ・・・」

「俺ワ、そんな出来る奴等にわ、

興味ねえ!!」

「ぢやああたしみたいな、

出来ないコが、好きなの?」

「モモわ出来ないコ  
ぢやあ

ねえだろ!!

試しに、1ヶ月。

1ヶ月だけでイイ。

俺と付き合ってみないか??」

(あたしの事、こんなに、見えて  
くれてたんだ。

ただ、隣の席ってだけで、

ここまで、見えて

くれてたんだね。

ありがとう。

貴方なら、大丈夫な、

キがする。

そう思い、

あたしわ、

付き合って

見る事にした。

これが、あたしに  
とって、

よかつたのか、

わかつたのか、

分からない……。  
)

「イイヨ……。」

「えっ??」

「1ヶ月、優と、

付き合ってみる。」

「アリガトウ。

まだ。嬉しいよ!」  
「

「ぢゃあ。また、明日ね。」

「オウ”明日な!!」

第3マ〜付き合つて（後書き）

なし

夜の世界と、朝の世界（前書き）

なし



## 夜の世界と、朝の世界

（優。なんで、あなたわ、優しいの??）

なんで優わ、いつも、

笑顔なの??

そう、聞いてみた。。）

イヤ。

聞いてみたかったんだ。

でも、なぜか、

きいちゃいけないキがした。

なんでだろう??

体ヲ凄く答えを、

聞きたがつてる。

でも、なぜか、

心の何処か、遠い場所で、

” ” ダメ ” ”

って、いつてる

気がした……。あの日から、丁度

1ヶ月。

実際この1ヶ月わ

凄く楽しかった!!

もう、モモの気持ちワ、

決まっていた。

勿論、OKの

はずだった!!!

「モモ。俺が、今から、丁度1ヶ月前

この場所で言っただ事、

覚えてるか??」

「うん。覚えてるよ。」

「そっか。よかった。」

「うん。答えをゆう前に、

もう一度、告白して下さい。」

「モモ  
””

俺と、付き合ってくれないか???」

「イイヨ。優  
””

だあいゝ好き!!」

そういうゆめを、見た・・・。

何故かないてた・・

あたしわ、時計をみた。

8：10分

8：10分・・

8：10分!!!!!!

ヤバイ・・・・

完全遅刻だあ!!!!!!

まちやばいと思い、

急いで用意!!

でも、結局ついたのわ、

8：45分だった・・・

その後、先生にしかられ、

ただ、ボウーーーー

つとする授業わ

終わった・・・。

あたしわ、あの日と同じように

教室に残っていた。

夢と同じだ・・・

今朝みた幸せな、

夢と・・

同じ？

イヤ・・・・。

同じぢゃあない、

あの答えワ、

間違ってるんだ。

あたしわ、普通に

恋愛したりできるコ

ぢゃない。

そんな、可愛い

普通のコじゃない。

あたしわ、ヨルの

世界に生まれ、

夜の 世界に、育てられた、

心も体も、黒に

染まった悪いコ”

こんな朝の世界に、

生まれ、朝の世界に

育てられた、優とわ

まるで別人。

・・・優・・・

ゴメンなさい・・・。

あたしわ、優とわ

付き合えない・・・。

あなたが、夜の世界の

人なら、話わ

違った・・・。

でも、こんなイイ人

夜にわいない。

優???

ゴメンネ・・・。

あたし、優とワ・・・ /

付き合えない・・・



コメント下さい。

夜の世界と、朝の世界（後書き）

なし

第5話（前書き）

なし

## 第5話

「そんなの関係ないじゃん。」

朝も、夜も一緒だよ」

「違う。違うよ優。」

あなたわあたしの、

本当の姿を知らない。

あたしわ、優と付き合えるような、

「ごじゃない。」

「なんでだよ（怒

なんで、そう決めつけんだヨ!!」

「実際、付き合って

優といると、凄く

楽しかったヨ。

でも、あたしわ

夜の世界しか、知らないの。

だから、朝の、光の世界で生まれ育った

優とわあわないんだよ。

ゴメン。1ヶ月前の

何もなかった、

あたしたちに、

戻る??」

「いやだ。

別れるのワ、分かった。

でも、なんで、夜と  
朝ぢゃあ

付き合えないんだ??

その理由を、

ゆってから、

別れるよ。」

「わかった。」「長くなるけど、

きいてね。」

「ああ。」

「あたしわ、元々

捨て子だった。

その頃あたしわ、

1才で、まだ何も

外の世界を知らなかった。

でも、あたしわ

その日、あたしを

拾ってくれた、

優しい人に憧れて

すぐなついて、

毎日が、楽しかった。

でも、ある時

あたしわ浚われた・・・。

ここが何処かも、

分からない。

この人たちも、誰なのか  
わからない。

それに、まだ1才の

あたしにわ、事情を

把握する事も

何をする事も、

わからないでいた。

あたしわ、泣き続けた。

それしか、恐怖を

退ける事ワできなかった。

もとの、お母さんの所に

返して！！

そうゆう思いで、

ただひたすら泣いてた。

すると、1人の男が

あたしにいったの。

「お前、一生。死ぬまで、

もとの親の所にワ

帰れないぜ””」

って。

そしてあたしわ



そいつらを恨んだ。

そして、あたしわ

そいつらの下で、

育った。あたしにわ

悪達しか、できなくて、

なにをしても、

怒られなかった。

万引きをしても、

人を殺しても、

なにをしても

怒られなかった。

あたしわ、怒って

ほしかった。

殴って、怒鳴ってほしかったの。

でも、そいつらわ

何も怒ってくれなかった。

第5話（後書き）

なし

あたしの居場所（前書き）

なし

## あたしの居場所

そうゆう世界の中で、

生きてきた・・・。

まず、怒られる事を

知らないあたしわ

散々悪い事を、

しつづけた。

「優にワ、分からないよ。

こんな状況で

育つて来たあたしわ

どれだけ、苦しくて

惨めで・・・。

だから、こんなあたしとわ、

優 わつり合わない。

分かったでしょ??

ねえ? 優?

聞いてる??

ねえ!! 聞いてるの??」

優 わ後ろを向いたまま…………

「…………グズ…………

グズ…………グズ」

「えっ?

」

「優? 泣いてるの?」

「お・前。 辛かったなあ。 苦しかったなあ。

俺、お前の気持ち

少し分かったよ。

でも、自分が悪インぢゃ、ねえぢゃん。

なあ。モモわイイコ

ダヨ。俺わモモを

認める。胸張って、

ゆえる。『モモわ、悪イコなんかやない。

エエコやって』」

そういつて、優わ

あたしを抱き締めて

くれた。

あたしわ優に、抱き締められたまま、

泣き続けた・・・

でも、一つあの時に

流した涙ぢゃあ

ない事に気付いた。

その時、あたしわ

核心した。

何で、いままで

誰にも話せなかった

事を、約1ヶ月前に

転校してきた、優に

なんの恐怖もなく

話せたんだろう??

でも、答えワ

出てた・・・

優わちゃんと、

あたしの事見てて



くれてたから。彼の、懷で泣きながら、

あたしの心の中わ、

晴れていた。。

そこわまるで、

ずっと暗かった

あたしの心に、

優が太陽をくれたよおに・・・。

ほんの少ない時間だったケド。

優ワ、閉ざしたあたしの

心に太陽をくれたんだよ。。

優の懷わあたしの

居場所なんだ！！

あたしの居場所（後書き）

なし

闇人（前書き）

なし

## 闇人

そんなこんなで、

あたしと優わ付き合い始めた……。。

自然と溢れる笑顔！

優わ、いつも笑ってるね＃＃

優がいたから、

あたしわココまで

来れたよ！！

ホントにアリガト！

「また、明日ね優」

家に入ろうとした。

その時。

ゴンッ  
ッ  
ッ

鈍い音がした。

何！？

痛い！！

頭が

痛い！！

痛いよ・・・

遠のく意識の中で。

ひたすらに叫んだ。

優

優

助けて・・・

痛い！頭が……

あたし、このまま

しんぢやうの力ナ？

誰？あたしをやったのわ誰？

意識をうしなつた……

「うツ　　ウウツ」

「おい！気が付いたぜ。」

「何！？誰あんた達！！」

「うるせー女だ。」

さっさとやろうぜ”」

あたしわ

この時確信した。

これわ・・・／／

レイプだ。

「いや！―！やめて。

触らないで””

あたしに、触らないでよ。あっち行って

んッ””

いやあ~~~~~



あたしわ、レイプされた……。。

ココ何処？？

また、あの時に

戻ったの？？

いや。死にたい。。

もう、死にたいヨ。。

あたし、もう優の所にわ。。。。

帰れない。。。。

もう、優のいる明るい場所にわ。。。

もどれない。

優・・・

ゴメン。

あたし、今回わ

何もしてないよ。

きっと、罰があたったんだね。

優に太陽をもらったから、

あたしわ、闇に住む人

なのに。

無理に光の差す方に

行こうとしたから、

きつと、

罰があたっただね。

やっぱり、永遠なんて

ないんだね。

アの時、教室でない時、

あたしわ、優。あなたという事が、永遠に

感じた・・・・。

でも、やっぱりないんだ。

優？ココ何処？？

怖いヨ・・・

あたし、怖いよ・・・

優の力借りちゃ、ダメなの？？？

お願い。

助けて。優

闇人（後書き）

なし

愛される事!! (前書き)

なし

愛される事!!

あたしわ遠のく意識の中、

必死に叫んだ。

ただ、助けてほしかった。

優。

「ゆ・・・う・・・た・・・すけ・・・て」

「ゆ・・・うたす・・・けて」

「ゆう・・・／たすけ・・・て」

「ゆう!!--!--!--!」

「モモ??」

「えっ??」

なんでか振向くと、

優がそこにいた・・。

「おい！！しっかりしろ！！モモッ

どした？

なにがあつたん？？

話してみ？？」

「優。

あんね・・／

あたしね・・・・・

汚れちゃった。



優と別れてすぐに、

家に入ろうとしたの。

でも、いきなり後ろから、なぐられて・・・

氣イ失ってたら、

知らない車の中で

一瞬あの時に、

戻ったのかと思った。

でも、車の中わ現実で、

あたしわ必死に抵抗した。

でも、男達あいてにわ

モモの力なんて

通用しなかった。

あたし・・・

汚れちゃったヨ。

優？？

ゴメン。ホントにゴメン。

もうあたしわ、

優の所に帰れない。

助けてくれて、

アリガトね。」

「帰ってこいよ。」

モモ！！また、こっちこいよ””

俺ワモモが、やられたからって、

振ったりいねえよ。

突き放したりしねえよ！！

モモわモモだ””

モモわおれのだ。

モモ。帰ってこいよ。

頼む。俺わモモがいなきや、

ダメなんだ。

お願いだ、頼む。

戻ってきてくれ”」

「いいの？？」

「ああ。何があっても・・・」

「うん」

「守ってあげられなくて、ゴメンナ」

「いいよ。」

優々??

あなたわどおして、

そこまで優しいの？

なんで、同じ人なのに、

ココまで、心がひろいの??

あたしわふと、疑問に思った。

でも、またすぐ、答えがでるんだ。

優が、あたしの事を

凄く、

凄く

大切にしてくれて

あたしの上に

一緒に向き合ってくれて

だから、最後にワ

優とモモ。両方が

笑顔になるんだね！！

あたしわ、この時

人に愛される事が

どれだけ幸せか、分かった気がした。

イヤ。詳しく優から、教えてもらったヨオ

愛される事!! (後書き)

なし

帰ろっ? (前書き)

ない



帰るっ?？」

「さあ。モモ。

帰ろ!！」

「……………」

「今度ワ家まで、送るよ!!モモの部屋まで!!」

「ホント?？」

「ああ」

「よかった。アリガト優!!」2人ヲ手を、つなぎながら、  
帰っていた。

でも…………

「ちょっと、喉かわいたから、

その「ンベ」って来る!」

「モモ。まってるな!」

「イヤ。怖い。」

「大丈夫!」すぐ前やから、

「うん。でも、なんであたしついてっちゃ、ダメなの?」

「秘密!」

「ええ?」

「じゃあ1分で、戻るから」

「うん。数えてまってる」

「アハハハ」

戻ってきた。

というより、道路はさんだ、

所に・・・！！

優～～！！

「今行く！！」

キキーーーーーイ

ドンッッッッッ

ウッッ

キャアアアアア！！

優！

ユ  
ウ

ゆ  
う

「しっ  
かりして！！

ねえ。優死なないで。

誰か、救急車！！

救急車呼んでください！！！！」

ピーポーピーポー

「午後11:42  
御臨終です。」

「うそ・・・」

うそだよ・・・

ねえ優??

送ってって、くれるんでしょ???

だったら、早く帰ろう???

ねえ? 優?

帰ろうよねえ???

なんか、イッテよ。

ねえ？

優？

戻って来て！！！！

お願い

帰って来てよ！！

帰ろっ? (後書き)

なし

返して・・・（前書き）

なし



返して・・・

「お願い・・・

彼を返して・・・

あたしから、優を取らないで！！

あたしわ、彼がいないと

生きていけない・・・

お願い。神様。

あなたが、本当に

存在するのなら、

わたしに、彼を

返してください。

彼ワあたしに、いろんな事を、

教えてくれました。

いろんな事を、

経験させてくれました。

そして何より、

今のあたしを、

くれました。

真っ暗の中に、1人でいた、あたしを

光の指す方向に

導いてくれました。

そして、今のわたしを・・・

彼わあたしに

くれました・・・。

でも、あたしわ

なにも優にあげてない。

何も、優に恩返し  
できてない

だから、これからするから、

彼を返して下さい。

神様。あなたの力なら、

できるでしょ???

だって、ゆうわまだ、

13才なんだよ??

あたしと一緒になんだよ??

なんで、あたしぢやなくて、

優なの??

もしかして、

あたしに優しくしたから??

あたしが、レイプされたのわ

罰でも、認めれるよ。

でも、なんで優まで??

罰でも、あたしのメ前から、

姿を消すような、

罰って・・・

優が何をしたの？？

罰をうけるのわ

あたしのはず・・・。

なのに、なんで。

なんでよ・・・。

お願い。あたしわ

消えてもいい。

そのかわり、優を、

この青く綺麗な、地球に、

返してください。

お願い。神様。

あたしわ、優に沢山の物を

もらった。

目にわ見えない。

でも、あたしにわ、

見えるの・・・。

そんな人を、とらないで！！！！

返して！！！！

返してよ。

お願い！

彼を、あたしの元に

返してくださいお願いします”  
”

返して・・・(後書き)

なし



彼がくれたもの!! (前書き)

なし

彼がくれたもの！！

今、彼があたしにくれたものわ何〜??? そおきかれたら、あたしわまず、

いまのあたし。

って答えるヨお。

優が、あたしの目の前から

いなくなつて、

もう2年。

あたしわ15才。

あなたわ何て答える??

あれから、2年かあ

時が立つのわ

ビックリする程、

早い時と、遅い時と・・・

両方あるね”

でもねえ、

あたしの中でわ、

一瞬 時間が止まってた・・・／／

ある月曜日と、

その1ヶ月後と、

それから、火曜日の  
午後11：42分。

そお、告白された日と、

優が死んだ時・・・。

あたしの中でワ

時間わ止まって。

永遠のよおな気さえ  
した。

でも、そんな訳ない。

この世に永遠なんて

ありえない。

でも確かにあの時、

時は止まって・・・

ねえ？ 優

あたしは、あなたに

たくさんの

物をもらったよ。

幸せをくれたね。

優しさをくれたね。

人を信じる事・

人を愛す事・・・

人に愛される事・

夜から朝に行く事・

言い出したらきりが無いよ。

でも、沢山な事が

沢山あつてそれで今のあたしが

あるんだよ。

優わ腐り切つてた

あたしの事を、

生まれかわらして、くれたんだ。

優わ新しいあたしを

くれたんだ。

優。ありがとう

優わ最後まで、強かったね”

でもねえ。

生まれ変わったあたしでも、

挫けたことわあつたんだよ。

沢山挫折したよ。（優？そこにいるの？？

なんであたしにわ

優の姿が見えないの？？

ねえ？？優？

そこにいるの？？

優!!

もどつてきてよ・・

淋しいよ。

ねえ？

優？

あたし、今どんな顔してる？

笑ってる??

泣いてる??

あたしなりに、

優が今、あたしの顔

みたら引くと、思う

だって、あなたがいないんだから・・・・・

こんな事思ってたんだよ。

でもねえ？

それわ過去の事！

優！！聞こえる？？

今、あたしの声が

聞こえてる？？

ねえ？早く帰って来てね！！

あたしを浚いに来てね！！

もう泣かないよ””

だって、昔のあたしわ

もういないんだもの。

今は優がくれた



あたしだよ。

ありがとう

いろいろありがとう彼がくれたもの・・・

それわ、

目にみえないけど

心でわかる

暖かかった温もりと

そして生まれ変わった、

山川・モモ

だった。

そう彼がくれたもの

それわ

あたし！！

END

彼がくれたもの！！（後書き）

皆さん。呼んでくれてありがとうございます！！。あたしが、この物語を書いたのは、恋人の死に負けない彼女を、かきたかったからです！！もし、みなさんの近くで、彼氏が死んでしまつて、悲しかったら、この小説を呼んでほしいです。みなさん本当にありがとうございます！！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4227c/>

---

～彼がくれたもの～

2010年12月14日15時18分発行